

教育委員会資料

請願第 1 号

「定時制教育を充実させるための請願」について

・ 資料 1	市立高等学校改革推進計画第 2 次計画（案）概要版	2
・ 資料 2	川崎高等学校、高津高等学校における受検者数の推移	4
・ 資料 3	教職員定数及び配置について	5
・ 資料 4	定時制高校の適正配置について	6
・ 参考資料		
	平成 31 年度の「高等学校生徒入学定員計画」について	7
	公立中学校卒業生者の進路状況別進学率	7
	平成 31 年度入学者選抜志願状況（定時制の課程）	8
	平成 31 年度公立高等学校定時制課程入学理由等のアンケート調査」より	9
	定時制課程のあり方及び出身中学校区分布	11

令和 2 年 2 月 1 2 日
教育委員会事務局

市立高等学校改革推進計画 第2次計画（案）

〔概要版〕

1 第2次計画策定に向けて

(1) 市立高等学校改革推進計画 第1次計画

「川崎市立高等学校教育振興計画（平成15年5月）」において示された取組内容のうち「新しい視点による学校・学科・学系の創造」を具体的に推進するため「かわさき教育プラン」、「川崎市新総合計画」との整合を重視し平成19年7月に策定。**川崎高等学校において併設型の中高一貫教育校、二部制定時制課程の設置等の再編が実施**された。

(2) 高校教育を取り巻く状況

- 中央教育審議会初等中等教育分科会高等学校教育部会「審議のまとめ」（平成26年6月）より
 - ・「**共通性の確保**」：学び直しの充実、自己評価の充実、基礎学力の確実な習得 等
 - ・「**多様化への対応**」：キャリア教育・職業教育の推進、優れた才能や個性を伸ばす学習の機会の提供、グローバル人材の育成、ICT教育の推進 等
- 教育再生実行会議による第11次提言（令和元年5月）より
 - ・Society5.0を生き抜くための力や生徒一人ひとりが能動的に学ぶ姿勢を共通的に身に付けさせる。
 - ・将来、世界を牽引する研究者や幅広い分野で新しい価値を提供できる人材となるための力を育む。
 - ・「総合的な探究の時間」や「理数探究」等における問題発見・解決的な学習活動の充実を図る。
- その他
 - ・川崎市持続可能な開発目標（SDGs）推進方針の策定。（平成31年2月）
 - ・ICT環境は新たな学びの基盤として不可欠なものであり、学習者用コンピュータの整備が必要。

(3) 長期保全計画の策定

第1次計画において、**高津高等学校の改築に合わせて第2次計画を策定する予定**であったが、長期保全計画に基づく取組により、**当面は改築を行わず、改修による再生整備と予防保全を基本として長寿命化**を図ることとなった。

(4) 市立高等学校改革推進計画 第2次計画 の策定

社会状況の変化に対応するとともに、振興計画で示された取組「**教育内容・方法の充実**」、「**開かれた学校づくり**」、「**意欲的な活動を支援する条件づくり**」の着実な推進を図るため第2次計画を策定する。
各校が特色ある教育を進め、多様な学習ニーズに対応するとともに環境の変化を踏まえながら、さらに魅力ある市立高等学校の創出を図る。

2 第1次計画の概要及び取組状況

(1) 全日制課程

①川崎高等学校

- ・川崎らしい特色をもつ**併設型の中高一貫教育校**として川崎高等学校附属中学校を平成26年度に開校。
- ・国際都市川崎をリードするたくましい人材の育成を目指し、体系的・継続的な教育活動を展開。

②幸高等学校（商業高等学校）

- ・平成22年度から商業科・情報処理科・国際ビジネス科の3科を**ビジネス教養科の1科に統合**。
- ・平成29年度から**普通科を設置**し、校名を「幸高等学校」と変更。

③川崎総合科学高等学校

- ・工業系5学科と理数系1学科の計6学科で構成され、特色ある教育活動を展開。

④橋高等学校

- ・普通科5学級、スポーツ科1学級、国際科1学級で構成され、特色ある教育活動を展開。

⑤高津高等学校

- ・多様なニーズに対応できるよう進路別のカリキュラムで教育活動を展開。令和元年度からBYOD方式による一人1台のPCを活用した学習等を導入。

(2) 定時制課程

①川崎高等学校

- ・平成26年度から**二部制定時制として普通科昼間部を設置**。
- ・キャリア教育の推進に向けた指導と支援を実施。

②幸高等学校（商業高等学校）

- ・平成26年度から普通科の募集を停止。
- ・平成29年度から商業科を川崎総合科学高等学校定時制課程へ移行。

③川崎総合科学高等学校

- ・平成26年度から2つの学科（電気・電子科、機械科）を**クリエイティブ工学科に統合**。
- ・平成29年度に**商業科を商業高等学校定時制から移行**。

④橋高等学校

- ・平成25年度から**三年制課程を廃止**、四年制課程のみとし三修制コースの選択を可能とする。

⑤高津高等学校

- ・平成29年9月からキャリア教育の推進に向けた指導と支援を実施。

3 第2次計画策定に向けた基本的な考え方

- (1) 新しい時代に求められる資質・能力の育成
- ・新たな価値を生み出す**豊かな創造性**
 - ・グローバル化の中で**多様性を尊重する力** 等

- ・開かれた学校づくり（**地域との連携**を図った教育活動 等）
- ・意欲的な活動を支援する条件づくり（**ICT環境の充実**等）

- (2) 振興計画による取組の推進

- ・教育内容・方法の充実（**学びの場の充実のための学級編成**や、学び直し等の居場所づくり 等）

- (3) 計画の取組期間：令和2年度から概ね10年間

- ・取組の実施状況や社会情勢の変化等を踏まえ、本市総合計画やかわさき教育プランの点検・評価及び実施計画策定作業の中で検証・見直しを行う。

4 主な課題と課題解決に向けた考え方

5 第2次計画の取組

(1) 全日制普通科	①普通科教育について → 魅力ある普通科教育の推進	○カリキュラム・マネジメント ・生徒一人ひとりの資質・能力を伸ばせるような授業改善や 教科のつながりを意識した教育課程を編成 する必要がある。	・各教科等の見方・考え方を働かせた 横断的な視点による教育課程 の編成と実施、評価、改善を進める カリキュラム・マネジメントの充実
	○キャリア教育 ・ 生徒自らがキャリアをデザインする力の育成 に向けた教育課程を編成する必要がある。	・キャリアに直結する学校設定科目を開設し、 体験的・課題解決的な授業の実施	
	○ICT環境の整備 ・ 社会の情報化に対応する能力を育成 するためのICT環境を備える必要がある。	・高津高等学校と橋高等学校における無線LAN等の ICT環境の計画的な整備	
	○中学生の普通科志向 ・近年の 中学生の普通科志向 に対応する必要がある。	・ 幸高等学校普通科の2学級募集を3学級募集へ拡大	
	②中高一貫教育校について → 中高一貫教育校の充実	○グローバルコミュニケーション力 ・これからの国際社会において、 社会課題に対する関心や教養、コミュニケーション能力等の向上 が求められている。	・様々な教科の特色を生かした教育課程の編成や、海外研修の充実、市のグローバル人材育成事業への積極的な参加等、 グローバルコミュニケーション力の向上等につながる取組 の実施
	○総合的な探究の時間 ・ 課題を発見し、解決していくための資質・能力の育成 が求められている。	・横浜国立 大学や企業等との連携 による外部の知見を活用した取組の充実及び ICT活用による学習効果の向上	
○特色ある中高一貫教育 ・附属中学校からの進学生徒と高等学校からの入学生徒との間に、ICT活用の習熟度や学習到達度の差が見られる。 ・ 体系・継続的な教育活動の更なる推進 が求められている。	・「 学習指導要領等によらない特別的教育課程 」の編成 ・ 川崎高等学校の入学者選抜での普通科の募集を停止		
(2) 全日制専門学科	①専門教育について → 進路実現を目指した専門教育	○専門教育 ・社会の発展を担う人材育成のため、 社会や産業の変化に応じた専門教育指導が必要 であり、各校で改善を図る必要がある。 ・職業体験の機会を更に得るため、地域や企業、大学等と連携し、 キャリア教育や職業教育の推進 を図る必要がある。	・時代の変化やニーズに対応した 科目構成や内容についての検討・改善 、社会変化に対応した人材育成の推進 ・ インターンシップの積極的な実施 及び、実施先や期間、内容等を検討・改善することによる一層の充実
	○専門学科離れ ・一部の専門学科で定員割れが生じているため、 学級編成等について普通科とのバランスを考慮し検討 する必要がある。	・ 幸高等学校ビジネス教養科の4学級募集を3学級募集へ変更	
	②専門学科の情報発信について → 特色ある専門学科の情報発信	○情報発信 ・専門学科離れの課題に対し、 専門学科の特色について中学生や地域に理解を深めてもらう工夫 が必要である。	・特色ある取組や成果を積極的に紹介するための 説明会や合同発表会等の開催及び内容充実に向けた取組 の推進
(3) 定時制課程	①定時制自立支援について → 定時制自立支援の充実	○自立支援 ・様々な課題を抱える生徒の相談や進路指導等の対応、生徒同士の学び合いの場となる 居場所づくりが必要 とされている。	・中途退学の防止や進路実現に向け、定時制生徒自立支援事業（カフェ）の充実及び 橋高等学校、川崎総合科学高等学校への事業の拡大
	②定時制における学びについて → 定時制における学びの充実	○学びの充実 ・課題を抱える生徒への対応、特に外国につながる生徒の 日本語指導の支援が必要 であり、学び直しや特別な支援が必要な生徒等への支援の充実を図る。	・始業前や放課後の個別学習等、 生徒の学習機会確保 の工夫、 日本語指導の必要な生徒に対するサポート や学校の支援体制のより一層の充実
	○学級編成 ・ ニーズの高い昼間部と大幅な定員割れを続けている夜間部の学級編成 についての検討が必要である。	・高津高等学校の 3学級募集を2学級募集へ変更 ・ 川崎高等学校夜間部の募集を停止 ・ 川崎高等学校昼間部の2学級募集を4学級募集へ拡大	

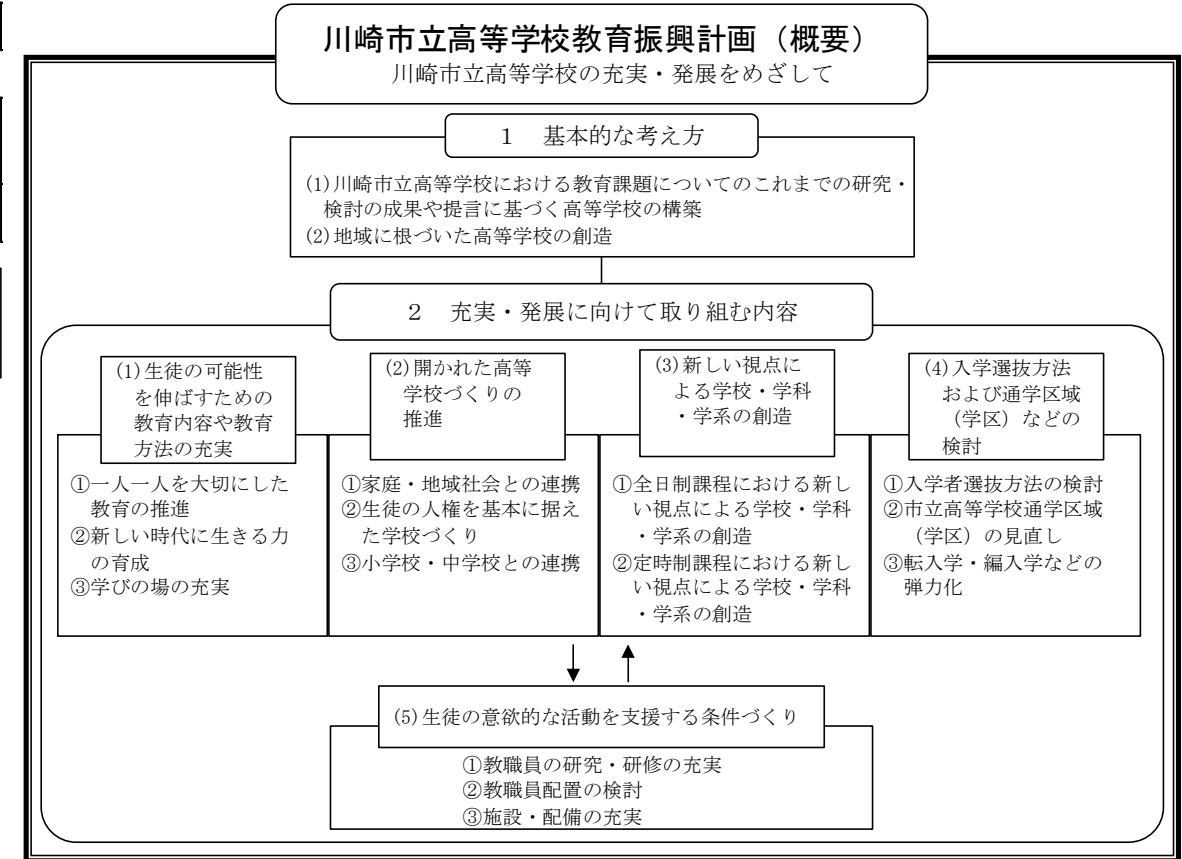
市立高等学校の再編等の方針（イメージ図）及び計画のスケジュール

【市立高等学校の再編等の方針（イメージ図）】

第1次計画策定前		第1次計画策定後（現在）		第2次計画	
学校名	課程	学校名	課程	学校名	課程
川崎高校	全日制（学年制） 普通科④ 生活科学科① 福祉科① 定時制（学年制） 普通科四年制②	川崎高校 (中学③) (二部制)	全日制（学年制） 普通科④ 生活科学科① 福祉科① 定時制（学年制） 普通科四年制④	川崎高校 (中学③) (昼間部)	全日制（学年制） 普通科③ 生活科学科① 福祉科① 定時制（学年制） 普通科四年制④
商業高校	全日制（学年制） 商業科③ 情報処理科② 国際ビジネス科① 定時制（学年制） 普通科四年制① 商業科①	幸高校	全日制（学年制） 普通科② ビジネス教養科④	幸高校	全日制（学年制） 普通科③ ビジネス教養科③
川崎総合科学高校	全日制（学年制） 情報工学科① 総合電気科① 電子機械科① 建設工学科① デザイン科① 科学科① 定時制（学年制） 電気/電子科① 機械科①	川崎総合科学高校	全日制（学年制） 情報工学科① 総合電気科① 電子機械科① 建設工学科① デザイン科① 科学科① 定時制（学年制） クリエイティブ工学科① 商業科①	川崎総合科学高校	全日制（学年制） 情報工学科① 総合電気科① 電子機械科① 建設工学科① デザイン科① 科学科① 定時制（学年制） クリエイティブ工学科① 商業科①
橋高校	全日制（学年制） 普通科④ スポーツ科① 国際科① 定時制（学年制） 普通科三年制① 普通科四年制①	橋高校	全日制（学年制） 普通科⑤ スポーツ科① 国際科① 定時制（学年制） 普通科四年制②	橋高校	全日制（学年制） 普通科⑤ スポーツ科① 国際科① 定時制（学年制） 普通科四年制②
高津高校	全日制（学年制） 普通科⑥ 定時制（学年制） 普通科四年制③	高津高校	全日制（学年制） 普通科⑦ 定時制（学年制） 普通科四年制③	高津高校	全日制（学年制） 普通科⑦ 定時制（学年制） 普通科四年制②

※○数字は学級数 ※網掛けは変更部分 ※網掛けは変更予定 ※募集定員、学級数については教育委員会議で正式決定

【参考：市立高等学校教育振興計画 体系図】



【計画のスケジュール】

取組の概要		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度～
全日制 普通科	①魅力ある普通科教育の推進	高津：カリキュラム検討・準備	高津：カリキュラム公表	高津：カリキュラム実施	幸、橋：取組の検討・準備	幸、橋：取組の開始	取組の検証・改善
	ICT環境の整備	高津：BYOD試行運用	(実施順序)高津→橋：無線LAN環境等の整備	遠隔教育や市立高校間のネットワーク活用を念頭に試験的な取組を検討			
	学級編成等		募集学級数の公表	幸(普通科)：2学級→3学級募集			
全日制 専門学科	②中高一貫教育校の充実	グローバルコミュニケーション力の向上	川崎：取組の検討	川崎：検討結果に基づく取組の充実			
	総合的な探究の時間の充実	川崎：取組の検討	川崎：検討結果を踏まえた取組の実施				取組の検証・改善
	特色ある中高一貫教育の推進	川崎：特別の教育課程の検討	募集学級数の公表 川崎：「学習指導要領等によらない特別の教育課程」の編成・実施 川崎(普通科)：募集停止				取組の検証・改善
定時制課程	①進路実現を目指した専門教育	各教科の科目構成や内容の改善	幸、総合科学等：科目構成・内容等の検討	幸、総合科学等：カリキュラム公表	幸、総合科学等：科目構成・内容等の改善		
	キャリア教育、インターンシップの推進・充実	幸、総合科学等：検討・準備	幸、総合科学等：カリキュラム公表	幸、総合科学等：インターンシップの充実を踏まえたカリキュラムの推進			
	学級編成等		募集学級数の公表	幸(ビジネス教養科)：4学級→3学級募集			生徒数・進路希望に応じて検討・対応
定時制課程	②定時制における学びの充実	生徒自立支援事業(カフェ)の充実、拡大	川崎、高津：事業の実施	川崎、高津：事業の充実 橋：定時制生徒自立支援事業実施	川崎総合科学：定時制生徒自立支援事業実施		
	生徒の学習機会の確保		全校：検討・準備	全校：始業前、放課後等を利用した学習機会の確保			取組の検証・改善
	日本語指導や特別な支援が必要な生徒へのサポートの整備	全校：日本語指導非常勤講師の配置	教育委員会：特別な支援に関する検討	全校：検討結果に基づく取組の実施			取組の検証・改善 取組の検証・改善
	学級編成等		募集学級数の公表	川崎(夜間部)：募集停止 (昼間部)：2学級→4学級募集 高津：3学級→2学級募集			生徒数・進路希望に応じて検討・対応

新学習指導要領実施

※社会状況の変化等でスケジュールは見直す場合があります。

川崎高等学校、高津高等学校における受検者数の推移

昼間部：8名の不合格者を出す
夜間部：70名定員で49名の欠員

	平成26年度				平成27年度				平成28年度				平成29年度				平成30年度				平成31年度			
	共通 選抜	定通 分割	二次 募集	欠員	共通 選抜	定通 分割	二次 募集	欠員	共通 選抜	定通 分割	二次 募集	欠員	共通 選抜	定通 分割	二次 募集	欠員	共通 選抜	定通 分割	二次 募集	欠員	共通 選抜	定通 分割	二次 募集	欠員
市立川崎 昼間部	56 70	/	48 70	0 70	50 70	/	26 70	0 70	65 70	/	8 70	0 70	66 70	/	9 70	0 70	68 70	/	4 70	0 70	78 70	/	- 70	0 70
市立川崎 夜間部	26 70	/	38 70	7 70	41 70	/	13 70	17 70	33 70	/	7 70	31 70	25 70	/	13 70	30 70	14 70	/	9 70	48 70	14 70	/	0 70	49 70
市立高津 夜間部	60 84	35 47	2 16	14 105	37 84	32 69	0 47	47 105	37 84	17 68	3 57	53 105	47 84	33 59	1 36	35 105	37 84	23 69	3 58	55 105	35 84	20 71	2 61	60 105

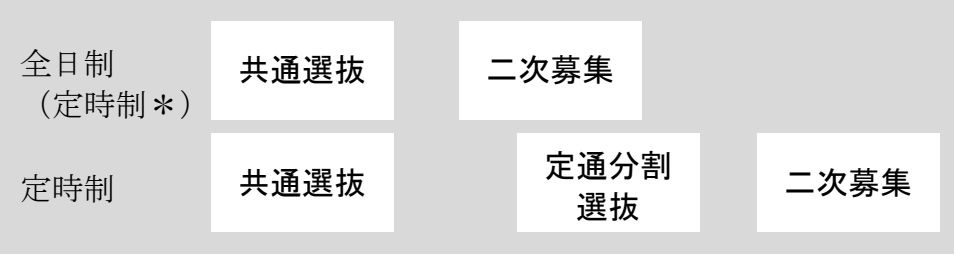
※分母：それぞれの選抜の定員、分子：受検者数（欠員の欄は欠員の人数）
※受検後、合格後に入学辞退者がいる場合は、二次募集等の募集人数を増やす。

H31夜間部合格者には第2希望を含む。

高津：計3回の募集を実施、105名定員で60名の欠員、2学級募集で対応できる

定時制の選抜方法

- ①共通選抜で募集定員の80%を募集し、選抜する。
- ②定通分割選抜で残りの定員（募集定員の20%と共通選抜での欠員分）を募集し、選抜する。
- ③募集定員に達しない場合、二次募集を実施する。



共通選抜：全日制、定時制、通信制の課程が共通の日程で実施する選抜
定通分割選抜：定時制・通信制の課程が募集定員を2回に分割して実施する選抜
全日制は1回、定時制・通信制は2回の受検の機会がある。（二次募集を除く）

定時制*：二部制、三部制定時制やフレキシブル校など、昼間の時間帯に学習できる定時制は全日制と同様に共通選抜のみ。

教職員定数及び配置等について

教職員定数及び配置

- 国の「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」(高校標準法)では、収容定員数(生徒)に応じて教員の定数を算定
- 高校標準法に基づいて算定した教員定数を基本としつつ、本市の教育施策や各学校の実態を考慮しながら教員を配置しており、各学校に大きな差異はない。

定時制課程における生徒の在校時間

学校名	始業時間～終業時間	生徒在校時間
川崎高等学校	昼間部 14:15～17:35 夜間部 17:30～20:55	6時間40分
川崎総合科学高等学校	17:30～20:45	3時間15分
橘高等学校	17:25～20:50	3時間25分
高津高等学校	17:40～20:50	3時間10分

・ 始業時間、終業時間はHRの開始、終了の時間

- 川崎高等学校定時制における生徒の在校時間は、他校と比較して約2倍
- 他の学校と比較すると、職員会議(全教職員の参加)や、部活動(昼間部の生徒は夜間部の授業が終わるまで待っている)、学校行事(夜間部の生徒数が少なすぎる)等、学校運営面に一定の制約
- 計画を着実に推進(夜間部募集停止・昼間部に集約)することにより、生徒の在校時間が他の学校並みとなることから、学校運営における制約がなくなり、よりきめ細やかな対応が可能

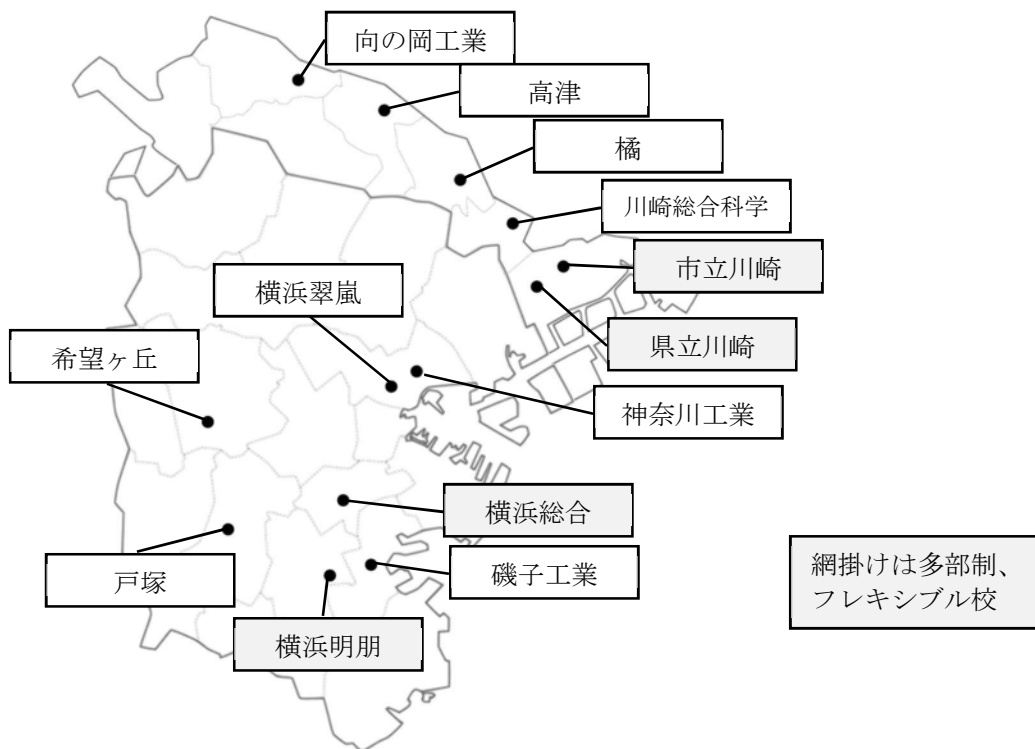
定時制高校の適正配置について

「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」(抜粋)

第四条 (公立の高等学校の適正な配置及び規模)

○都道府県は、高等学校の教育の普及及び機会均等を図るため、その区域内の公立の高等学校の配置及び規模の適正化に努めなければならない。この場合において、都道府県は、その区域内の私立の高等学校並びに公立及び私立の中等教育学校の配置状況を十分に考慮しなければならない。

川崎・横浜市域の定時制高校 配置状況



川崎・横浜市域の定時制高校 学級数一覧

神奈川県立			横浜市立			川崎市立		
横浜翠嵐	普通科	4	戸塚	普通科	4	川崎	普通科昼間部	2
希望ヶ丘	普通科	3	横浜総合	総合学科Ⅰ部	4		普通科夜間部	2
神奈川県立工業	機械科	2		総合学科Ⅱ部	3	橋	普通科	2
	建設科	1		総合学科Ⅲ部	3	高津	普通科	3
	電気科	1	川崎総合科学	クリエイト工学科	1	商業科	1	
横浜明朋	単位制普通科午前部	4		商業科	1			
	単位制普通科午後部	4						
川崎	単位制普通科	2						
磯子工業	総合学科	2						
向の岡工業	総合学科	2						
学校数：7 学級数 25			学校数：2 学級数 14			学校数：4 学級数：11		

平成 31 年度の「高等学校生徒入学定員計画」について

「神奈川県公立高等学校設置者会議」資料より

平成 31 年度の定員計画の方式

- 平成 22 年度から 3 年間は、公立中学校卒業予定者の 6 割を全日制公立高等学校の入学定員としてきたが、平成 25 年度定員計画策定時に、それまでの公立間の定員協議の経緯を勘案し、公私各々が自らの責任において実現を目指す定員目標を設定する方式に改め、策定してきた。
- 平成 31 年度も、引き続きこの方式により策定する。

実現を目指す定員目標設定の考え方

- 公立の目標設定にあたっては、公立中学校卒業予定者の動向に対応できるよう定員枠を確保し、全日制進学率の向上に寄与するものとする。

その他

- 全日制公立高等学校定員計画の策定にあたって、県・三市教育委員会は公私が協調して全日制の進学率を向上させることを念頭に私立高校の配置状況等を十分に考慮する。

計画

- 公立：42,500 人程度を入学定員の目標とする。
- 私学：14,600 人程度を入学定員の目標とする。
(公立中学校卒業予定者数 68,727 人)

公立中学校卒業者の進路状況別進学率

進学年度	公立中学卒業者数		全日制進学率	県内公立		県内私立		県外等		定時制		通信制	
				進学者数	率	進学者数	率	進学者数	率	進学者数	率	進学者数	率
H27	県全体	69,744	90.2%	43,079	61.8%	13,714	19.7%	6,093	8.7%	2,249	3.2%	2,522	3.6%
	川崎市	9,358	90.5%	5,124	54.8%	953	10.2%	2,389	25.5%	329	3.5%	269	2.9%
H28	県全体	70,397	90.9%	43,528	61.8%	14,521	20.6%	5,965	8.5%	2,062	2.9%	2,440	3.5%
	川崎市	9,792	91.7%	5,366	54.8%	1,290	13.2%	2,327	23.8%	287	2.9%	269	2.7%
H29	県全体	69,996	90.7%	43,487	62.1%	14,146	20.2%	5,851	8.4%	2,028	2.9%	2,546	3.6%
	川崎市	9,770	90.3%	5,393	55.2%	1,092	11.2%	2,334	23.9%	344	3.5%	344	3.5%
H30	県全体	69,140	90.9%	42,824	61.9%	14,435	20.9%	5,590	8.1%	1,780	2.6%	2,717	3.9%
	川崎市	9,881	90.8%	5,438	55.0%	1,337	13.5%	2,172	22.0%	274	2.8%	384	3.9%
H31	県全体	68,742	90.8%	42,347	61.6%	14,497	21.1%	5,589	8.1%	1,516	2.2%	3,034	4.4%
	川崎市	9,709	90.8%	5,350	55.1%	1,334	13.7%	2,081	21.4%	224	2.3%	429	4.4%

(神奈川県公立高等学校協議会資料より)

平成31年度 入学者選抜 志願状況（定時制の課程）

	学校名	学科・部名	募集定員	共通選抜			定通分割選抜			二次募集			欠員
				募集人員	受検者数	受検倍率	募集人員	受検者数	受検倍率	募集人員	受検者数	受検倍率	
県立普通科	横浜翠嵐	普通科	140	112	40	0.36	100	21	0.21	91	0	0.00	91
	希望ヶ丘	普通科	105	84	35	0.42	70	8	0.11	68	2	0.03	68
	横須賀	普通科	70	56	9	0.16	61	17	0.28	50	1	0.02	49
	追浜	普通科	70	56	12	0.21	58	7	0.12	56	2	0.04	54
	茅ヶ崎	普通科	70	56	13	0.23	57	6	0.11	54	0	0.00	54
	伊勢原	普通科	70	56	13	0.23	57	4	0.07	54	1	0.02	53
	津久井	普通科	70	56	6	0.11	64	3	0.05	62	0	0.00	62
県立単位制普通科	横浜明朋	普通科午前部	140	140	121	0.86	/	/	/	20	12	0.60	8
		普通科午後部	140	140	81	0.58	/	/	/	59	12	0.20	47
	川崎	普通科	70	70	67	0.96	/	/	/	3	3	1.00	0
	湘南	普通科	105	84	34	0.40	71	8	0.11	67	1	0.01	66
	小田原	普通科	70	56	12	0.21	58	1	0.02	58	0	0.00	58
	厚木清南	普通科	140	140	83	0.59	/	/	/	57	10	0.18	47
	相模向陽館	普通科午前部	130	130	143	1.10	/	/	/	—	—	—	0
普通科午後部		130	130	66	0.51	/	/	/	52	8	0.15	45	
県立総合単位制	磯子工業	総合学科	70	56	13	0.23	57	6	0.11	56	0	0.00	56
	向の岡工業	総合学科	70	56	12	0.21	58	3	0.05	56	1	0.02	55
	平塚商業	総合学科	70	56	19	0.34	51	10	0.20	48	0	0.00	48
	秦野総合	総合学科	70	56	8	0.14	62	3	0.05	60	0	0.00	60
	神奈川総合産業	総合学科	105	84	63	0.75	42	24	0.57	28	0	0.00	28
県立専門学科	神奈川工業	機械科	70	56	20	0.36	50	7	0.14	44	0	0.00	44
		建設科	35	28	10	0.36	25	1	0.04	24	0	0.00	24
		電気科	35	28	11	0.39	24	6	0.25	21	0	0.00	21
	小田原城北工業	機械科・電気科	35	28	5	0.18	30	2	0.07	28	0	0.00	28
横浜市立	戸塚	普通科	140	112	16	0.14	124	12	0.10	117	5	0.04	112
	横浜総合	総合学科Ⅰ部	144	144	171	1.19	/	/	/	—	—	—	0
		総合学科Ⅱ部	108	108	127	1.18	/	/	/	—	—	—	0
		総合学科Ⅲ部	108	108	57	0.53	/	/	/	24	2	0.08	22
横須賀市立	横須賀総合	総合学科	70	56	70	1.25	14	19	1.36	—	—	—	0
川崎市立	川崎	普通科昼間部	70	70	78	1.11	/	/	/	—	—	—	0
		普通科夜間部	70	70	14	0.20	/	/	/	49	0	0.00	49
	川崎総合科学	クリエイト工学科	35	28	13	0.46	22	7	0.32	20	0	0.00	20
		商業科	35	28	6	0.21	29	7	0.24	29	0	0.00	29
	橘	普通科	70	56	23	0.41	47	16	0.34	44	0	0.00	44
高津	普通科	105	84	35	0.42	71	20	0.28	61	2	0.03	60	

「平成 31 年度公立高等学校定時制課程入学理由等のアンケート調査」より

神奈川県教育委員会が定時制教育の充実・改善等に役立てるため、定時制課程入学者に実施している調査データから、川崎市立高等学校定時制課程の部分を使用。

川崎市立高等学校定時制課程（川崎、川崎総合科学、橘、高津）
平成 31 年度入学者より 170 名の回答（令和元年 5 月実施）

Q 1. 現在仕事をしていますか。

していない：約 62%

している：約 37%

Q 2. Q 1 で「している」と答えた方は、どのような働き方ですか。

正規社員、派遣社員：約 3%

アルバイト：約 87%

自家営業（手伝いを含む）：約 5%

Q 3. どのような受検方法で入学しましたか。

共通選抜：約 84%

定通分割選抜：約 7%

二次募集：約 2%

Q 4. 定時制課程を選んだ理由は何ですか。（複数可）

〈上位のもの〉

働きながら学ぶ事ができるため：約 67%

1 日の授業時間が短い：約 52%

社会に出るためには、高校での学習が必要だと思ったため：約 52%

4 年間でじっくり学ぶことができるため：約 43%

定時制の雰囲気自分に合っているため：約 37%

定時制はより丁寧に面倒をみてくれると思ったため：約 34%

公立全日制への進学を希望していたが、学力的に難しかったため：約 30%

Q 5. 中学校 3 年生の 10 月頃の進路希望調査で、どのような進路を第 1 希望にしていますか。

〈上位のもの〉

公立定時制高校（夜間）：約 29%

公立定時制高校（昼間）：約 27%

公立全日制高校：約 19%

Q 6. 中学校時代の通学状況はどのようなものでしたか。

- 休むことなく、毎日欠かさず通った : 約 12%
風邪などで少しやすんだが、ほとんど毎日通った : 約 29%
休みがちだった : 約 58%

Q 7. 学習面で望むことは何ですか。(複数可)

〈上位のもの〉

- 基礎から時間をかけて勉強したいので授業の内容をやさしくしてほしい : 約 59%

Q 8. 特別活動で望むことは何ですか。(複数可)

〈上位のもの〉

- 学校行事を充実してほしい : 約 49%

Q 9. 学校生活で望むことは何ですか。(複数可)

〈上位のもの〉

- 進路指導を充実してほしい : 約 31%
学習指導を充実してほしい : 約 31%
部活動を充実してほしい : 約 24%

定時制課程のあり方及び出身中学校区分布

定時制課程のあり方について

- 定時制教育は、戦後、就業等のために全日制高校に進学できない青年に後期中等教育の機会を提供するものとして制度化され、高校教育の普及と教育の機会均等の理念を実現するうえで大きな役割を果たしてきた。
- しかし、社会経済状況の変化に伴い、近年においては、働きながら学ぶ勤労青年の数が減少する一方、定時制高校の生徒については、全日制課程からの進路変更等に伴う転入学・編入学者（中途退学経験者）、中学校までの不登校経験者など自立に困難を抱える者、過去に高等学校教育を受ける機会がなかった者など、様々な入学動機や学習歴をもつ者が多くなっており、制度発足当初とは著しく異なった様相を生じている。
- このような中で、生徒にとっての「通いやすさ」は距離的な要因だけでなく、時間帯も大きな要因である。明るい時間に下校できることも、生徒が「通いやすさ」を感じる上で大きなウエイトを占めるように変化している。
- 本市においては、平成 26 年度に設置した川崎高等学校定時制昼間部のニーズが高まっており、近年では不合格者を出さざるを得ない状況が見られる。
- また、学び直しや、特別な支援が必要な生徒への対応、優れた才能・個性を有する生徒への支援、外国につながる生徒数の増加による日本語指導の支援等、多様化する生徒のニーズに対応するため、昼間部の拡大が求められている。

平成 31 年度市立高等学校入学生徒 出身中学校区分布

出身 中学校区	学 校				
	川 崎		川 崎 総合科学	橘	高 津
	昼間部	夜間部			
川崎	32	15	5	1	0
幸	17	1	6	10	1
中原	7	0	4	5	0
高津	7	1	0	3	12
宮前	1	1	0	2	17
多摩	2	0	1	0	6
麻生	2	0	0	2	4
その他	2	3	5	3	5
合計	70	21	21	26	45

※その他：市外、私立学校等